

【子宮頸がん予防ワクチンに係る情報提供】

子宮頸がんの原因ウイルスである HPV (Human Papilloma Virus : ヒト・パピローマ・ウイルス) と HPV ワクチンに対する正しい知識の提供、子宮がん検診の重要性を啓発するため、国立がんセンター・がん情報サービスのホームページに記事掲載予定。

.....

1月・・・記事作成開始



2月・・・査読終了 厚生労働科学研究費補助金研究班研究代表者に依頼



関係学会との調整



3月・・・最終校正

ホームページへ掲載

.....

子宮頸がんワクチンに係る情報提供

.....
国立がんセンター・がん情報サービスのホームページにある

「各種がんの解説—子宮頸がん—」に掲載予定
.....

掲載 (案)

子宮に発生するがんは、全体として年間約 17000 人^{*1}が発症し、このうち子宮頸がんは約 9000 人^{*1}、子宮体がんは約 7000 人^{*1}が発症しています。年齢別にみた子宮頸がんの罹患率（発症率）は、20 歳代後半から 40 歳前後まで増加した後、一旦横ばいになり、70 歳代後半以降再び増加しているのが特徴です。

また、死亡者数に関しては、子宮のがん全体で約 5700 人^{*2}が亡くなっており、このうち子宮頸がんが 2500 人^{*2}、子宮体がんが約 1600 人^{*2}、どの部位なのかはっきりしない子宮のがんで約 1500 人^{*2}が亡くなっています。ただ、一部の専門家の中では、子宮頸がんと体がんの死亡者数の割合から、この 1500 人のうち約 1000 人が子宮頸がんがんで亡くなっていると換算し、子宮頸がんの死亡者数は約 3500 人いるのではないかと推測されています。

なお、近年、罹患率、死亡率ともに若年層で増加傾向にあり、その原因となるウイルスと関連するワクチンが注目されています。

◇最近の話題◇

【HPV (human papilloma virus : ヒト・パピローマ・ウイルス) とは?】

子宮頸がんは、低年齢での初交、多産、性行為感染症、性的パートナーが多いなどの傾向があり、このような場合は発がんのリスクが高いと言われています。その他、喫煙は確かなリスクだとされており、さらに経口避妊薬の使用や低所得階層との関連性も指摘されています。

また、HPV が子宮頸がん患者の 90% 以上から検出され、現在、HPV が子宮頸がんの主な原因ウイルスであるとの報告があります。なお、HPV には、実に 100 種類以上のタイプがあり、このうち 15 種類が子宮頸がんの原因となる「高リスク型」に分類されています。

HPV は原則的に性交渉で感染しますが、HPV 感染者からどの程度の確率で感染するかはよくわかっていません。子宮頸がん患者から捉えれば大多数が HPV に感染していますが、HPV 感染者から捉えれば、大部分は無症状で経過し、発癌することは稀だと考えられています。また、子宮頸がんは長期の前がん病変（がんになる前の病変）を経てがんになりますので、検診を受けて前がん病変の時に見つければ、十分治療できると言われています。

【子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）の現状】

HPV に対するワクチンは、接種することによって体内に抗体をつくり、HPV の感染を防止します。平成 22 年 3 月現在、国内で市販されているワクチンは、高リスク型に分類される 15 種類のうち、2 種類（16 型と 18 型）の感染に対して高い予防効果があるとされています。

このワクチンの効果効能に関連する接種上の注意点として、市販されているワクチンに添付されている説明書には、以下の 4 点が示されています。

(1) HPV16 型及び 18 型以外の癌原性（がんの原因になる）HPV 感染に起因する子宮頸がん及びその前駆病変（前がん病変と同じ意味）の予防効果は確認されていない。

(2) 接種時に感染が成立している HPV の排除及び既に発症している HPV 関連の病変の進行予防効果は期待できない。

(3) 本剤の接種は定期的な子宮頸がん検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸がん検診の受診や HPV への曝露、性感染症に対し注意することが重要である。

(4) 本剤の予防効果の持続時間は確立していない。

なお、現在、厚生労働省の研究班では、15 種類全ての高リスク型 HPV に効果のある、日本人にとってより有効なワクチンの開発に着手しています。

【子宮頸がん検診の重要性】

現在、ワクチンのことで様々な声が寄せられていますが、現在市販されているワクチンは子宮頸がんの治療薬ではありませんし、定期的な子宮頸がん検診の代わりとなるものではありません。ワクチン接種に加え、正しく子宮頸がんの知識を持ち、性交渉による HPV の感染に対して注意することが大切であり、何よりも早期発見のために子宮頸がん検診の受診が重要なのです。

若い女性に発症するがんだからこそ、20 歳からの子宮がん検診を受けてください。

※1・・・子宮のがん全体の罹患数；16572 人（上皮内がん除く）、子宮頸がんの罹患数；8674 人、子宮体がんの罹患数；7430 人；地域がん登録（平成 16 年推計値）

※2・・・子宮のがん全体の死亡数；5709 人、子宮頸がんの死亡数；2486 人、子宮体がんの死亡数；1637 人、子宮の悪性新生物・部位不明の死亡数；1503 人；人口動態統計（平成 20 年）